

未来づくり懇談会（玉田）会議録

日 時：平成30年1月25日（木）

18：30～20：12

場 所：玉田自治公民館

出席者：矢板市長、教育長、経済建設部長

1 開 会 18：30 進行：秘書広報課長

2 あいさつ 矢板市長

3 出席者紹介

4 矢板市設定テーマ

持続可能な片岡地区のまちづくりについて

・資料に基づき、人口・高齢化率推移等について説明。

Q1 税金はどうなっていくのか。上げないとやっていけないのでは。

A1 人口が減れば、いろいろな税収が落ち込んでいく一方、人口が減っていくことで多少なりとも行政コストも削減できる余地があると思う。効率的な行政サービスを今まで以上に取り組んでいかななくてはいけないと考えている。

5 行政区設定テーマ

○道路行政について

市道50号線について、矢板南産業団地から一番高い地点まで完了しているが、残り約600mを整備すれば県道に接続する。接続すれば矢板南産業団地や矢板ICに行くのに近くなるし、矢板方面に行くのも便利になるので要望した。

また、コリーナ入口から塩谷町境まで歩道がない。雪が降ると歩道がないため通学する子どもたちが車道を歩いている状況なので、県へ整備の要望をしてほしい。

A 市道50号線について、市で課題だと思っているのが二点ほどあり、一つは地権者の協力。600mのルートは、かなり昔になるが説明会を開かせて頂いた経緯がある。その時に地権者の反対があり計画は頓挫した。

また、試算してみたところ、約3億5千万円の費用がかかる。工事だけでも2億近い費用。その他に用地買収、木の補償、設計、測量など。市の単独事業ではとても難しいので、国の補助を利用することになるが、今は国の方針で、老朽化したインフラの長寿命化に回していくというところがあり、なかなか厳しいので、整備については長期的な計画、要望とさせてほしい。

県道塩谷・喜連川線の歩道については、教育委員会の管轄になるが、矢板市通学路安全対策推進協議会があり、平成28年7月に要望があり、平成29年3月に協

議会の中で子どもが通学路に使うのに危険な箇所だということで追加された。去年12月25日に会議をした際に、県の担当者からは、歩道設置の必要性、あるいは緊急性等について、現在調査研究しているとの回答があった。また、市と矢板土木事務所で土木行政連絡会議が5月初旬にあり、市の要望箇所として県に要望した。引き続き県の方には要望していきたいと考えている。

平成30年5月 土木行政連絡会議にて県へ引続き要望

○教育行政について

小中学校の学校教育が、これからの人を育てていくのに大変大切なところかと思う。一つは、矢板市の教育の進め方について話を聞きたい。二つめは、小中学校の施設の整備について話を聞きたい。

A 市の教育行政の方針は5つある。学校教育が中心となるが「人づくり、人間性と生きる力を育てる学校教育」、「心のふれあいと、人と人、組織と組織とが繋がらう社会教育」、「高原山の自然を背景にしたうるおいのある、芸術、文化、文化財の保護」、「健康で明るいスポーツの推進」、「家庭教育力の向上」。

特に学校教育については、今いろいろなところで学力の向上が言われている。

一つ目は、全国学力テスト。栃木県は算数、数学が弱かったが、改善しようということで、今年度のテストでは栃木県全体が上がった。もちろん矢板市も上がった。また、新しい学習指導要領が2020年にできると発表された。その中で小学校の5・6年生には英語科が作られる。また道徳は教科ではなかったのだが教科になる。予算的にはALT（外国語指導助手）の人数を3人増やす要求をしている。また先生以外に、非常勤職員も増員も要求している。

◆英語教育

小学1、2年生の授業時数は年間10コマ

小学3、4年生の授業時数は年間15コマ

小学5、6年生の授業時数は年間50コマ

教員の指導力向上のための研修も実施する。

平成30年度 ALT（外国語指導助手）は5名 → 8名（3名増員）

二つ目はICT教育。タブレットを使った教育も、来年度、小学校の何校かで、試験的に取り入れていき、学校教育については力を入れているところ。

施設の整備については、市の公共施設等総合管理計画が立てられ、床面積ベースで40%削減の目標が立てられた。学校については単純に統廃合を決めることはできないので、今年4月から、小中学校の適正配置検討委員会を立ち上げ、再配置の計画を立てていく。少し時間はかかるが施設の整備も順次進めていく。

平成30年3月 矢板市公共施設再配置策定計画を策定

平成30年6月 矢板市立小中学校適正配置検討委員会を設置

Q1 矢板東高がレベルアップして大高を抜くのではないかとされている。矢板東高は入るのが難しい学校になった。

A1 矢板東高には、付属中から入った子と、高校から入る子の二つの選択肢が出て

きたので、以前よりも入りにくくなったとは感じる。今年度末は第1期目の子どもたちが卒業して大学入試になる。大学入試だけが全てではないが、一つの指標として結果が出るのではないかと思う

Q 2 他の地区にはスクールバスがある。玉田に通す考えはないか。

A 2 現在、市内の小学校の関係でスクールバスが運行されているのは、以前小学校が統廃合の対象になった長井小、上伊佐野小の地域。日新小は、山田の方は泉小へ、土屋の方は矢板小にスクールバスが運行されている。スクールバスは小学校の統廃合の代わりに用意をしたもので、それ以外だと学校まで4km以上のお宅に交通費の援助をしている状況。

6 意見交換

Q 1 水道管の老朽化は、相当進んでいるのでは。

A 1 水道については矢板市だけではないと思うが、高度経済成長期に整備をした水道管や施設の老朽化が進んでいる。水道は特別会計で独立採算が原則であり、計画を立てながら、整備、保守をする必要がある。

料金徴収は既に民間活力を導入しているが、今後も少しでもコスト削減をしていきたい。

平成30年度	矢板市水道事業の現状と将来見通しを踏まえ、安定的に事業を継続するための中長期的な経営の基本計画として「経営戦略」を策定予定。 計画期間は10年間。5年（中間年）ごとに検証・見直し等を実施する予定。
--------	---

Q 2 防災無線が聞こえない。

A 2 防災無線は聞こえないという一方、うるさいとの話がある。音声電話サービスやメール配信サービスを活用してほしい。年明けに、くらし安全環境課で聞こえにくさ調査を全域で調査する。

平成29年5月	防災行政無線放送確認電話番号のチラシを全戸配布
平成29年6月	防災メール登録及び防災行政無線放送確認電話番号のチラシを全戸配布。
平成29年11月	防災行政無線放送確認するためのフリーダイヤル（通話料無料）電話番号のチラシを全戸配布。
平成30年1月	防災行政無線の聞こえ方調査を実施

Q 3 マイナンバーはいつから活用するのか。

A 3 マイナンバーについては、国の制度なので既に導入している。マイナンバーカードの申請は各個人となるが、個人情報に留意しながら、活用の幅は広げていきたい。

Q 4 お元気ポイント事業の「きらりんサポーター」が60歳未満の方は申請できないがなぜか。

A 4 お元気ポイント事業は介護保険特別会計で事業を行っている。介護保険の予防事業は65歳の方からしか対象にならないが、おおむね65歳ということで60歳からしか申請できない。

Q 5 片岡駅西口をもう少し開発してほしい。

A 5 都市計画の用途は少し見直しされてはいるが、商業施設を誘導できるような土地利用のあり方を推進していく。市でも意識はしている。

6 閉 会 20:12